

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社 サンヨー		
事業所名	グループホーム 貞山みよりの家 ユニット海		
所在地	宮城県多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	平成26年 1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0470900309-00&PrefCd=04&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が住みなれた町で安心・安全で暮らせるよう、気配りを大切に、その人らしい暮らしが続けられるよう、サポートいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設約10年を迎えるホームで、幹線道路に面し、近くにスーパー、病院、小学校があり、駐在所が隣接している。共用型指定認知症対応型通所介護も提供している。職員は事業所理念を念頭に、利用者を人生の先輩として尊敬し、個別ケアを重視している。クリスマス会に家族会を開催し職員の出し物を披露したり、利用者の希望で日帰り温泉に出かけるなど、満足感を高める工夫をしている。お茶会や訪問者への挨拶など利用者一人ひとりの能力が発揮できる場を設けるようしている。利用者の穏やかな表情から、安心した暮らしがうかがえた。職員のケアの質の向上を目指し教育を重視し、新たな資格取得に向けた支援もしている。管理者は職員の勤務体制にも配慮し、働き易い職場作りにも努めている。行政や警察、消防署の職員が運営推進会議に参加し、意見交換し運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム貞山みよりの家

）「ユニット名 海

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には理念を伝え、理解してもらうようにしている。ミーティング、朝、夕の申し送りにも理念に触れ確認しあうようにしている。	「安全と安心で思いやりのある穏やかな生活を支える」の理念と方針、スタッフの心得を玄関に掲げ、申し送りやミーティングなどで唱和する。理念を職員のネームプレートの裏に貼っており、常に意識しながら、個別ケアを大切に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民とのボランティア等通じ、分かり易く説明したり、ホーム便りを地域の人に配って活用している。又、町内会の総会等に出席している。	町内会に加入し、町内会主催の盆踊り、公民館祭り、防災訓練などに利用者と職員が一緒に参加している。日本舞踊やカラオケのボランティアが訪れたり、中学校の職場体験の受け入れなど、地域の方々と積極的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談対応等についての啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議での検討事項、懸案事項についてその経過を報告し合い、一つ一つ積み上げて行うようにしている。又、現在、取り組んでいる内容についても報告し、意見を頂くようにしている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員、町内会班長、警察署や消防署職員、家族などが参加し、偶数月に開催する。警察署員から「ホーム前の道路は危険性について」、消防署員からは「火災発生に関して」等の情報提供があり、運営に関して意見交換されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、窓口にもホーム便り、等を届け、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝えるようにしている。	市職員が運営推進会議や外部評価に参加し、事業所の状況を把握している。「貞山みよりの家便り」を定期的に届けている。市から介護保険の情報が提供されるなど、協力連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。日々の申し送り時等でもその日のケアを振り返り点検している。	身体拘束の内容や弊害について学んでいる。申し送り時やミーティングで言葉遣いやプライバシーへの配慮について振り返るようにしている。帰宅願望の強い方には「お嫁さんが来てからね」「食べてから帰ってね」など、状況に合わせた声掛けをしたり、職員と一緒に出かけ、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業につちて学び、職員が理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や、態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営に心掛けている。ご家族には訪問時、家族会等で常に何でも話してもらえる雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。	面会時の会話やクリスマス会に合わせて年1回の家族会の時に、意見や要望を聞くようにしている。「お世話になり助かっている。」との感謝の言葉が多い。家族アンケートからも、気軽に訪問でき、意見が言い易い事がわかる。家族の意見や要望は職員間で共有し、運営に活かしている。	苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進する為に、第三者委員の設置を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ、月1回行い、意見を聞くようにしている。又、日頃から、コミュニケーションを図るように心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	ミーティングの他に職員の日頃の会話に耳を傾け、悩みや意見を大事にして運営に活かしている。ADL低下に伴う利用者へのケアと対応の仕方や職員の勤務体制の配慮など提案あり検討した。研修への参加や資格取得に向けて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は経営者に現場の情報をしっかり伝えている。職員が落ち着いて働けるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加できるよう心掛けている。又、研修会の資料を全職員に配布したりミーティング等で研修内容を報告する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会がありその中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、サービスの利用についての相談があった時は必ず、本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの経緯について話を聞くようにし、ご家族が求めているものを理解し事業所としてどのような対応できるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り、柔軟な対応を行う。本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援と信頼関係を築きながら、サービスに繋げる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の不安、喜びを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い共に支える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から、利用している美容院に行き続けている利用者や親しい友人に来て頂ける環境づくりに努め、継続的な交流が出来るように働きかけている。	多賀城市の中央・大代地域の利用者が多く、家族や友人などが訪れ、部屋でお茶を飲みながらゆっくり過ごせるように支援している。お正月やお盆に帰省したり、美容院や投票への外出支援をしている。利用者の要望にそって家族の宿泊もできる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面作りをする等、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状況を伺ったり、又、遊びに来て頂けるように声掛けをし、継続的な付き合いが出来るよう心掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛け、把握に努めている。言葉や表情等から、真意を察し、くみとり、確認をするようにしている。又、家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者の性格や趣味などを把握し、日々の会話から思いや要望を聞き、ミーティングや申し送りで共有している。以前、お茶の先生だった利用者にはお茶会での役割、話し上手な方には挨拶担当など、特技を活かし、満足感が得られるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人や家族、関係者等から聴き取るようにしている。利用後も、ご本人、家族にどんな生活していたのか機会がある毎に聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	医師、家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成し、定期的にあセスメント、モニタリングを行っている。状態が安定していても家族には毎月、電話や口答で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況、及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしており、勤務前の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして自宅で暮らす認知症対応のデイサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察や民生委員の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。	希望のかかりつけ医を受診し、基本的には家族が付き添い、報告を受け、医療連携記録に記入する。職員が付き添う場合は30分につき500円としている。訪問歯科の無料検診を実施している。往診医による医療体制を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人の支援方々に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている。又、家族とも、情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるように取り組んでいる。急変した場合はすぐ対応していただけるよう、医療機関とも連携を図り、対応している。	入居時に「看取りに関する指針」について説明している。看護師が利用者の健康管理を行い、緊急時の対応について事例を基に学習会を開催し、職員間で共有している。重度化対応に向けて医療機関や訪問看護師との協力連携を図るなどの取り組みを始めた。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の容態の急変や、自己発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。又、年間の所内研修計画により、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方訓練を定期的に行っている。	年6回夜間想定を含む避難訓練を実施している。運営推進会議時に訓練を行い、近隣住民との協力体制もある。消防署員からは「通報は大きな声で」「2階の避難の為の踊り場を広くした方がよい」などの助言があった。非常用食料など1週間分を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方をリーダーが点検にし、利用者の「誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	接遇やプライバシー保護について事例を基に学習している。利用者はお客様であり、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや接し方に配慮している。呼び名は希望にそって名字や名前にさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声がけ、意思表示が困難な方には表情で読み取ったりし、些細なことでも自分で決めることが出来るような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切ったすし方はせずに一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。行きつけの美容院で希望に合わせたカットや毛染めを継続して頂く様に連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら、決めたり、食事の片付けも、一緒に行うように努めている。又、利用者の誕生会、行事食も楽しまれております。	メニューは利用者と職員と一緒に考え、食事と一緒に和やかに食べている。栄養管理は栄養士が行っている。とろみ食やミキサー食、手作りの行事食など利用者の状況に合わせて支援している。好物を入れる冷蔵庫を持っている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。食事内容を写真や処理に記録、個別の残食等も記録して栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が事業所内の研修で理解し毎食後の口腔ケアの声がけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレ排泄できるように支援している。	排泄パターンを把握し、利用者の表情や様子をみてトイレ誘導している。入居時リハパンだった方がトイレの誘導を習慣づけた事で排泄リズムが出来、布パンツに改善された方もいる。便秘の方には腹部マッサージを行い、食材を工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。身体を動かすレクリエーション等を取り入れ、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴して頂いている。仲の良い方同士は一緒に一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。	大浴場は基本的に月・水・金で、個浴はいつでも入れるようにしている。入浴時間は午前9時～午後7時まで支援している。一番風呂が好きな方、仲が良い方同士など、希望にそって支援している。ゆず湯を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や季節毎の行事を取り入れ、その作業による喜びを実感して頂く様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいと思う場所への外出については、予め計画を立て、取り組みをしている。「温泉に行ってみよう」等の利用者の思いが出された時は実現する方策を職員同士で検討し、支援につなげている。	お弁当持参の花見、新緑ドライブ、紅葉狩りなど年間行事にそって外出支援をしている。温泉旅行の希望があり実施して喜ばれた。日常的にはスーパーや生協などへの買い物、お墓参り、投票に行くなどの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者様には、自分で管理して頂いています。買い物等の要望があれば、職員と一緒にいき、お金の管理が事務所の人でもお金を手渡し、自分で払って頂くよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて、日常的に電話や、手紙を出せるように支援している。又、プライバシーに配慮することも工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、柚子湯、桜餅等、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	共用空間は窓から暖かい日差しが入り明るく、温・湿度が適切に管理され、居心地良く過ごせるように配慮されている。季節がら玄関や和室にひな人形が飾られ、壁には行事の写真や手作り作品が飾られ、家庭的で癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き絵画や、花等で装飾した、居心地の良さに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不安なく生活が出来るように居室には使い慣れたものを活かし、居心地の良さに配慮している。	居室は広く、冷暖房、洗面台、物入れが備え付けてある。テーブルや家具、仏壇、冷蔵庫など馴染みの物を持ち込み、動線に配慮され、安心して過ごせるように工夫されている。個人名を掲げず、本人に合った花の写真を部屋の入口に掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを見直し、安全確保ち自立への配慮をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社 サンヨー		
事業所名	グループホーム 貞山みよりの家 ユニット空		
所在地	宮城県多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0470900309-00&PrefCd=04&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が住みなれた町で安心・安全で暮らせるよう、気配りを大切に、その人らしい暮らしが続けられるよう、サポートいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設約10年を迎えるホームで、幹線道路に面し、近くにスーパー、病院、小学校があり、駐在所が隣接している。共用型指定認知症対応型通所介護も提供している。職員は事業所理念を念頭に、利用者を人生の先輩として尊敬し、個別ケアを重視している。クリスマス会に家族会を開催し職員の出し物を披露したり、利用者の希望で日帰り温泉に出かけるなど、満足感を高める工夫をしている。お茶会や訪問者への挨拶など利用者一人ひとりの能力が発揮できる場を設けるようしている。利用者の穏やかな表情から、安心した暮らしがうかがえた。職員のケアの質の向上を目指し教育を重視し、新たな資格取得に向けた支援もしている。管理者は職員の勤務体制にも配慮し、働き易い職場作りにも努めている。行政や警察、消防署の職員が運営推進会議に参加し、意見交換し運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果（事業所名 **グループホーム貞山みよりの家** ）「ユニット名 **空** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には理念を伝え、理解してもらおうようにしている。ミーティング、朝、夕の申し送りにも理念に触れ確認しあうようにしている。	「安全と安心で思いやりのある穏やかな生活を支える」の理念と方針、スタッフの心得を玄関に掲げ、申し送りやミーティングなどで唱和する。理念を職員のネームプレートの裏に貼っており、常に意識しながら、個別ケアを大切に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入し盆踊り、敬老会には、利用者様と共に、積極的に参加している。	町内会に加入し、町内会主催の盆踊り、公民館祭り、防災訓練などに利用者と職員が一緒に参加している。日本舞踊やカラオケのボランティアが訪れたり、中学校の職場体験の受け入れなど、地域の方々と積極的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談対応等についての啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議での検討事項、懸案事項についてその経過を報告し合い、一つ一つ積み上げて行うようにしている。又、現在、取り組んでいる内容についても報告し、意見を頂くようにしている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員、町内会班長、警察署や消防署職員、家族などが参加し、偶数月に開催する。警察署員から「ホーム前の道路は危険性について」、消防署員からは「火災発生に関して」等の情報提供があり、運営に関して意見交換されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、窓口にもホーム便り、等を届け、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝えるようにしている。	市職員が運営推進会議や外部評価に参加し、事業所の状況を把握している。「貞山みよりの家便り」を定期的に届けている。市から介護保険の情報が提供されるなど、協力連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。日々の申し送り時等でもその日のケアを振り返り点検している。	身体拘束の内容や弊害について学んでいる。申し送り時やミーティングで言葉遣いやプライバシーへの配慮について振り返るようにしている。帰宅願望の強い方には「お嫁さんが来てからね」「食べてから帰ってね」など、状況に合わせた声掛けをしたり、職員と一緒に出かけ、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の中で勉強会、ミーティング等を実施し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業につちて学び、職員が理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や、態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営に心掛けている。ご家族には訪問時、家族会等で常に何でも話してもらえる雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。	面会時の会話やクリスマス会に合わせて年1回の家族会の時に、意見や要望を聞くようにしている。「お世話になり助かっている。」との感謝の言葉が多い。家族アンケートからも、気軽に訪問でき、意見が言い易い事がわかる。家族の意見や要望は職員間で共有し、運営に活かしている。	苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進する為に、第三者委員の設置を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ、月1回行い、意見を聞くようにしている。又、日頃から、コミュニケーションを図るように心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	ミーティングの他に職員の日頃の会話に耳を傾け、悩みや意見を大事にして運営に活かしている。ADL低下に伴う利用者へのケアと対応の仕方や職員の勤務体制の配慮など提案あり検討した。研修への参加や資格取得に向けて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は経営者に現場の情報をしっかり伝えている。職員が落ち着いて働けるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加できるように心掛けている。又、研修会の資料を全職員に配布したりミーティング等で研修内容を報告する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会がありその中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、サービスの利用についての相談があった時は必ず、本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り、柔軟な対応を行う。本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援と信頼関係を築きながら、サービスに繋げる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の不安、喜びを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い共に支える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から、利用している美容院に行き続けている利用者や親しい友人に来て頂ける環境づくりに努め、継続的な交流が出来るように働きかけている。	多賀城市の中央・大代地域の利用者が多く、家族や友人などが訪れ、部屋でお茶を飲みながらゆっくり過ごせるように支援している。お正月やお盆に帰省したり、美容院や投票への外出支援をしている。利用者の要望にそって家族の宿泊もできる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状況を伺ったり、又、遊びに来て頂けるように声掛けをし、継続的な付き合いが出来るよう心掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛け、把握に努めている。言葉や表情等から、真意を察し、くみとり、確認をするようにしている。又、家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者の性格や趣味などを把握し、日々の会話から思いや要望を聞き、ミーティングや申し送りで共有している。以前、お茶の先生だった利用者にはお茶会での役割、話し上手な方には挨拶担当など、特技を活かし、満足感が得られるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人や家族、関係者等から聴き取るようにしている。利用後も、ご本人、家族にどんな生活をしていたのか機会がある毎に聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録を日誌に記録し、一人ひとりの一日の暮らし方や生活のリズム、体調の変化等を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	医師、家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成し、定期的にあセスメント、モニタリングを行っている。状態が安定していても家族には毎月、電話や口答で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況、及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしており、勤務前の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして自宅で暮らす認知症対応のデイサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察や民生委員の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。	希望のかかりつけ医を受診し、基本的には家族が付き添い、報告を受け、医療連携記録に記入する。職員が付き添う場合は30分につき500円としている。訪問歯科の無料検診を実施している。往診医による医療体制を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方々に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。又、家族とも、情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるように取り組んでいる。急変した場合はすぐ対応していただけるよう、医療機関とも連携を図り、対応している。	入居時に「看取りに関する指針」について説明している。看護師が利用者の健康管理を行い、緊急時の対応について事例を基に学習会を開催し、職員間で共有している。重度化対応に向けて医療機関や訪問看護師との協力連携を図るなどの取り組みを始めた。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の容態の急変や、自己発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。又、年間の所内研修計画により、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方訓練を定期的に行っている。	年6回夜間想定を含む避難訓練を実施している。運営推進会議時に訓練を行い、近隣住民との協力体制もある。消防署員からは「通報は大きな声で」「2階の避難の為の踊り場を広くした方がよい」などの助言があった。非常用食料など1週間分を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方をリーダーが点検にし、利用者の「誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	接遇やプライバシー保護について事例を基に学習している。利用者はおお客様であり、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや接し方に配慮している。呼び名は希望にそって名字や名前にさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声がけ、意思表示が困難な方には表情で読み取ったりし、些細なことでも自分で決めることができるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切ったすごし方はせずに一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。行きつけの美容院で希望に合わせたカットや毛染めを継続して頂く様に連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら、決めたり、食事の片付けも、一緒に行うように努めている。又、利用者の誕生会、行事食も楽しまれております。	メニューは利用者と職員と一緒に考え、食事と一緒に和やかに食べている。栄養管理は栄養士が行っている。とろみ食やミキサー食、手作りの行事食など利用者の状況に合わせて支援している。好物を入れる冷蔵庫を持っている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。食事内容を写真や処理に記録、個別の残食等も記録して栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が事業所内の研修で理解し毎食後の口腔ケアの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレ排泄できるように支援している。	排泄パターンを把握し、利用者の表情や様子をみてトイレ誘導している。入居時リハパンだった方がトイレの誘導を習慣づけた事で排泄リズムが出来、布パンツに改善された方もいる。便秘の方には腹部マッサージを行い、食材を工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。身体を動かすレクリエーション等を取り入れ、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴して頂いている。仲の良い方同士は一緒に一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。	大浴場は基本的に月・水・金で、個別はいつでも入れるようにしている。入浴時間は午前9時～午後7時まで支援している。一番風呂が好きな方、仲が良い方同士など、希望にそって支援している。ゆず湯を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や季節毎の行事を取り入れ、その作業による喜びを実感して頂く様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるように散歩、買い物、お弁当を持ってドライブ等に出かけている。	お弁当持参の花見、新緑ドライブ、紅葉狩りなど年間行事にそって外出支援をしている。温泉旅行の希望があり実施して喜ばれた。日常的にはスーパーや生協などへの買い物、お墓参り、投票に行くなどの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者様には、自分で管理して頂いています。買い物等の要望があれば、職員と一緒にいき、お金の管理が事務所の人でもお金を手渡し、自分で払って頂くよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて、日常的に電話や、手紙を出せるように支援している。又、プライバシーに配慮することも工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、柚子湯、桜餅等、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	共用空間は窓から暖かい日差しが入り明るく、温・湿度が適切に管理され、居心地良く過ごせるように配慮されている。季節がら玄関や和室にひな人形が飾られ、壁には行事の写真や手作り作品が飾られ、家庭的で癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き絵画や、花等で装飾した、居心地の良さに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不安なく生活が出来るように居室には使い慣れたものを活かし、居心地の良さに配慮している。	居室は広く、冷暖房、洗面台、物入れが備え付けてある。テーブルや家具、仏壇、冷蔵庫など馴染みの物を持ち込み、動線に配慮され、安心して過ごせるように工夫されている。個人名を掲げず、本人に合った花の写真を部屋の入口に掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを見直し、安全確保ち自立への配慮をしている。		